



国分寺市役所で集合写真（七重塔の模型前）

1月25日13:00、天気はいいものの寒風吹きすさぶ西国分寺駅改札口に集合したのは16人。今回は今年最初の探索会でもあり、事務局が年会費を含め1500円を集めたのち歩き始めた。今回は案内人の菊池威さんが、学んだり勤務したりした思い出の地であり、とても話が弾んだ。

国分寺は、奈良時代聖武天皇の詔によって全国68か所に建立されたそうで、尼寺が併設されている。今回探索した武蔵国分寺は、今の東京都、埼玉県、神奈川県の一部を含む「武蔵の国」に建てられた。まさに武蔵の国の中心にあり、市の名前も「国分寺市」になっているのも頷ける。

「伝鎌倉街道」の小道を通過して、まず向かったのは「武蔵国分尼寺」跡。この資料館で動画や古瓦コレクションを見学後、広大な「武蔵国分寺」跡を散策した。「武蔵国分寺」の資料館では専任の案内人が説明してくれた。資料も豊富で、参加者はよく理解できたと思う。



都立武蔵国分寺公園は、旧国鉄の中央鉄道学園のあったところ。同学園は全国に40万人以上いた国鉄職員の多くが学んだ教育施設である。公園の一角には同学園のモニュメントがあり、案内人が校歌を歌い上げたのが印象的だった。

いつもながら、菊池さんの数回にわたる下見と膨大な資料にはお礼の言いようがない。感謝感激である。



（筆者より）

国分尼寺といえば、仙台の国分尼寺は南部・伊達の狭間で和賀氏主従が切腹したところだ。我が家の家系図によれば、和賀氏の重臣だった小原藤吾もここで死んだ。和賀氏は、小田原に参上しなかったため、一度お家断絶の憂き目を見たが。伊達家の応援もあって生き延びた。最後の統主たる和賀忠親が南部に押し入りお家再興を試みて失敗。これが家康の耳に入り、南部・伊達の問題に発展したのである。

（紫桃正隆著「和賀平野の戦乱」に詳しい）



（小原磯則・記）